

## 迎春



戸倉地区「城山」の頂から、晴天時には市内の街並みや遠くには都心の高層ビル群、東京スカイツリー（右上）を見渡すことができます。郷土の恵みの森づくりの取り組みとして、地域と連携して山頂を整備し、さらに眺望が開けました。城山の山頂へは、西戸倉からゆっくり登って30分ほどで到着します。テーブルやベンチがあり、登山コースの快適な休憩場所となっています。

**新年  
あけまして  
おめでとう  
ございます**



皆様には清々しく新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。旧年中は皆様方の暖かいご支援をいただきながら、「人と緑の新創造都市」を目指し、市政運営に取り組んでまいりました。あきる野市には、豊かな自然と先人たちが遺してくれた素晴らしい文化があります。この財産を活かして、あきる野市を市民誰もが誇りに思い、愛着の持てるまちにしていきたいと考えています。その実現に当たっては、市民と行政が言葉を交わし、共通の目標に向かって行動する「協働のまちづくり」が必要であると思います。今年、市長に就任して4年目です。この間、行政改革を進め、少しずつではありますが着実に成果が出ており、将来への道しるべを立てることができたと考えています。また、地域懇談会を開き、市政情報の共有や地域の課題などについて、胸襟を開いて地域の皆さんと意見交換の場を持つてきました。そして、防災・安心地域委員会や郷土の恵みの森づくり、さらには地域活性化戦略委員会など、市民と行政の協働による取り組みにより、活発な活動が始まりました。とりわけ、郷土の恵みの森づくりでは、昨年組織した森林レンジャーが、市内の森林における調査や環境整備を行うほか、地域の皆さんが行う森づくりへの協力と支援を行っており、市内外から高く評価されています。また、防災・安心地域委員会では、昨年、本部組織を設置し、さらなる防災体制の充実に努めています。これらの取り組みに対して、市の職員も森林サポートレンジャーや地域コミュニティ応援隊などの一員として、積極的に参加しています。このように、まちづくりにおける進むべき方向や実現に向けての体制は整いました。今年、「行動の年」と位置づけ、市民の皆さんと市役所がより深い連携を図り、まちづくりの課題を解決していきたいと考えています。

あきる野市長 白井 孝